

ドクトル伊田の口ほどに...



# 眼科治療における抗体医薬の役割

No. 36

現在、眼科領域のみならず病気の治療に抗体医薬が使われます。病気の組織では、細胞間で反応を起こすためのシグナル伝達をうけおろサイトカインが作られます。これをブロックして

反応を抑えるのが抗体で、薬として使えるように製剤化したのが抗体医薬です。

眼科ではぶどう膜炎や網膜の病気に使われます。見たものを脳に伝える網膜に血管病変が存在すれば、視力に重大な影響が出ます。その時、血管内皮細胞増殖因子を抑える抗体を眼球に直接注射する治療効果はかなりのもので、加齢黄斑変性や糖尿病、網膜静脈閉塞症で社会的失明につながる病状を回避できるようにな

ました。それは素晴らしいことです。ただし、**①**すべての症例に効くわけではない**②**視力を維持するため何度も注射が必要になることがある**③**薬の値段が非常に高価(注射1本が15万円以上)、等が欠点で、とくに**③**は眼科の医療経済を圧迫する問題になっています。

注射は保険診療ですの

で、患者さんは薬代の1/3割を支払い、残りは国が負担しますが、その膨大な薬代は年間500億円に達します。国が払える医療費は限度があり、一つの薬にこれだけお金を使えば、他の病気の治療にしわ寄せがきます。

抗体医薬の開発には莫大な資金がかかり、薬価が高いのは仕方がないのですが、それなら使用を最小限に留めるにはどうすべきでしょうか。

注射が必要な網膜の病気は、メタボによる動脈硬化性疾患が目起こした合併症です。自分がメタボと知りつつも危機感なく日常生活を送り、ある日突然、目に注射を打たなければならぬ事態に直面する。そんなる前に自己管理を率先して行うこと。

合併症が出れば抗体医薬がいかに優れていても、それは根治ではなく対処療法に過ぎません。予防に勝る治療はなく、抗体医薬をとりまく現状は、高齢化社会を迎えて医療費の増大に苦しむ我々にとるべき対策を示していると考えます。

(院長・伊田 宣史)



## 伊田眼科クリニック

- ・眼科一般
- ・日帰り手術
- ・コンタクトレンズ取り扱い

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:30	○	○	○	○	○	○	△
12:30	○	○	○	○	○	○	△
15:30	○	手術	○	△	△	△	△
18:30	○	手術	○	△	△	△	△

【休診日】木・土曜午後  
日曜、祝日

TEL 079-556-8600

三田市武庫が丘7-7-4 エムズⅡビル1階 <http://www.ida-ganka.com>

